

# 環境活動レポート

## 甲信商事株式会社

### 目次

1. 環境方針	・・・1
2. 会社概要	・・・2
3. 事業内容	・・・3
4. 実施体制	・・・4
5. 環境目標	・・・5
6. 環境負荷と実績	・・・6
7. 環境活動の取り組み結果と評価	・・・8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	・・・11
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無	・・・11

平成27年度版(平成27年4月～平成28年3月)

平成28年7月11日作成

# エコアクション21環境方針

## 環境基本理念

甲信商事株式会社は、誠実・協和・奉仕をモットーにお客様の事業と社会に貢献する企業として法規制を遵守し、あらゆる事業活動に於いて自主的継続的に環境保全活動に取り組みます

## 環境行動方針

1. 事業活動全般に関わる環境保全の継続的改革及び環境汚染の未然防止に努め、企業の社会的責任を遂行します。
2. 環境に関連する法令や規制及びその他の要求事項を遵守し、利害関係者の見解に配慮します。
3. 社員全員が積極的に環境保全に関心を持ち、下記の事項を重点活動テーマとして取り組みます。

① 使用電力、化石燃料量の削減に努めます。

② 全ての廃棄物を分別して再資源化に努めます。

③ 環境に優しい製品への提案と省資源に努めます。

④ 水資源の削減に努めます。

⑤ グリーン購入を推進していきます。

4. この環境方針は、全ての社員に周知徹底し、活動する事を誓います。環境方針の実現により、美しい地球を子孫の為に残せるよう継続します。

平成25年3月25日  
長野県松本市双葉7番3号  
甲信商事株式会社

代表取締役  
横山 啓一

## 2. 会社概要



**KOSHIN Trading Co.,Ltd.**

当社は昭和22年三菱商事(株)の解体に際し  
松本及び甲府事務所の社員を中心として設立しました。  
以来、三菱の流れを汲む地域の専門商社として『誠実』なる取引  
『協和』なる社内 『奉仕』する精神 をモットーとして  
今日に至っております。

営業品目も多岐に亘り、昨今の環境変化の著しい時代に於いても  
強い対応力を持ち、グローバルビジネスを進めるお客様の  
ニーズにお答えしております。

地域に密着して行くことを使命としており、長野、山梨両県下に8拠点を有しております。



事業所名 甲信商事株式会社

代表取締役 横山 啓一

設立 昭和22年7月31日

資本金 6,720万円

従業員数 79名

・環境管理責任者

細川豊三

連絡先 0263-28-1100

E-mail [hosokawa@koshinshoji.co.jp](mailto:hosokawa@koshinshoji.co.jp)

・環境管理担当者

菅原 育幹

連絡先 0263-28-1100

E-mail [sugawara@koshinshoji.co.jp](mailto:sugawara@koshinshoji.co.jp)

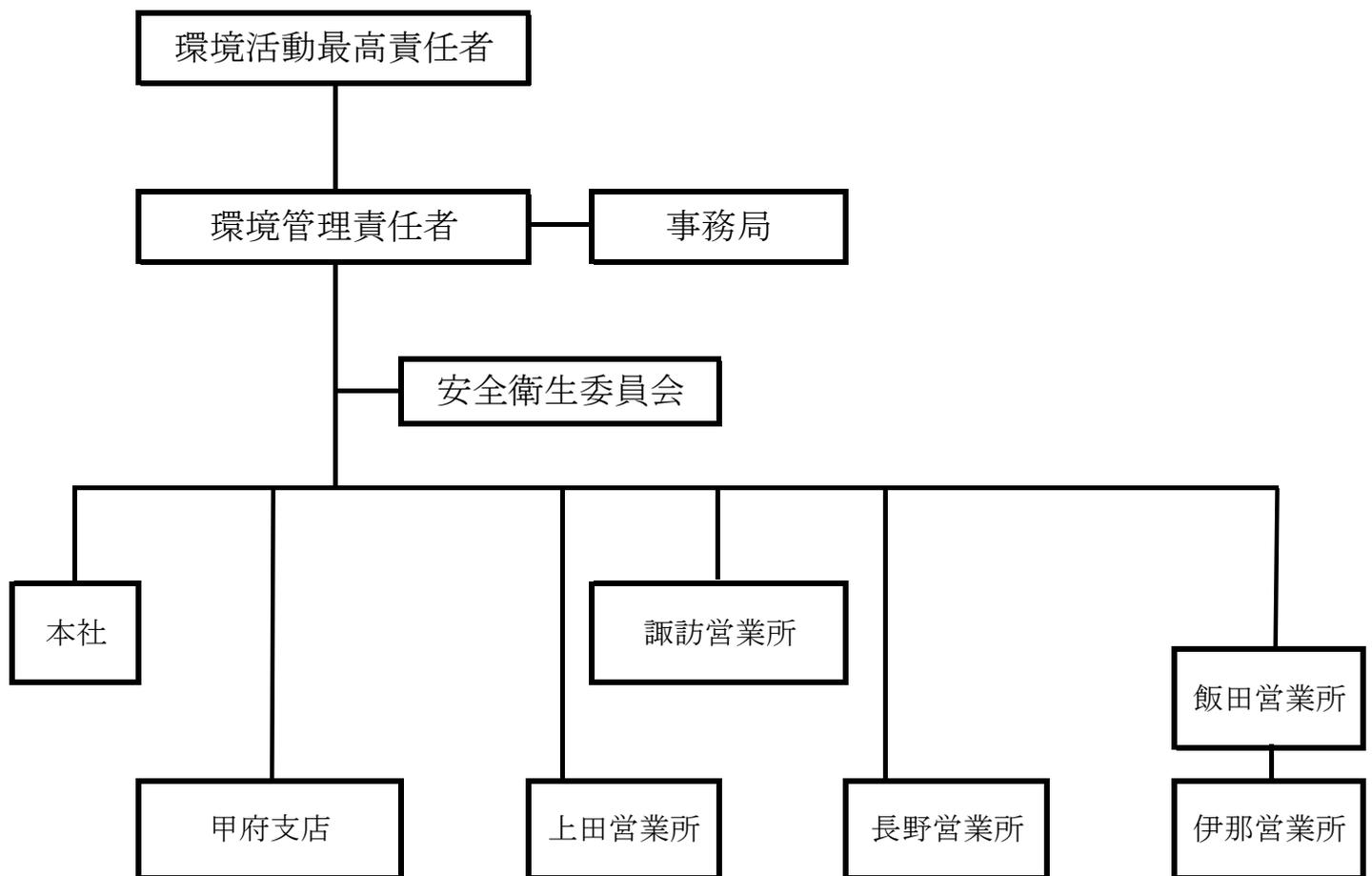
## 所在地

		TEL	FAX
・本社			
〒390-0833	長野県松本市双葉7-3	0263-28-1100	0263-27-3111
・本社倉庫			
〒390-0833	長野県松本市双葉8-7	0263-25-8840	0263-25-9337
・甲府支店			
〒409-3845	山梨県中央市流通団地3-4-1	055-273-5011	055-273-0664
・上田営業所			
〒386-0005	長野県上田市古里篠井原711-3	0268-27-8801	0268-27-9419
・諏訪営業所			
〒393-0047	長野県下諏訪町西赤砂4384-1 みなとやビル3F	0266-28-8155	0266-28-8156
・長野営業所			
〒381-2206	長野県長野市青木島綱島字往来下498-13	026-286-0031	026-285-7714
・飯田営業所			
〒395-0804	長野県飯田市鼎名古熊2151 プリマヴェーラ稲丘1F	0265-21-2450	0265-21-2451
・伊那営業所			
〒399-4501	長野県伊那市西箕輪7102-1 フリックエスピア205	0265-71-5588	0265-71-5585

## 3. 事業内容

- 工作機械及び関連機器・工具の販売
- 鍛圧・板金機械、塗装設備、熱処理設備
- 洗浄・計測・物流・環境 各装置及び機器の販売
- 上下水道施設の機械器具及び電気計測装置の設置工事  
の施工・保守管理並びに水道用資材・機器の販売  
〈建設業の許可:建設大臣〉  
〈ISO9001 認証:施工に適用〉
- 建材・金属・塗料・工業薬品・肥料・農薬の販売

## 4. エコアクション実施体制



○伊那営業所について  
甲信商事(株)伊那営業所は常に従業員が常駐していません。今までと同様に環境負荷にはあまり影響しないので飯田営業所に包含して活動しています。

○建材部営業所について  
平成25年9月に移転し、本社と統合になった。そのため、通常業務及び環境活動は本社として活動を行うため、建材部営業所の拠点は廃止した。

### ○認証登録範囲について

対象拠点は本社、甲府支店、上田営業所、諏訪営業所、長野営業所、飯田営業所、伊那営業所の全拠点  
また、甲信商事が行う全事業活動が認証登録範囲である。

## 5.環境目標

環境目標は以下の通りである。

	環境目標項目	基準値 (基準年度)	年度毎目標・達成手段		
			平成26年	平成27年	平成28年
全般	二酸化炭素排出量の削減	平成19年度 377,231(kg-CO <sub>2</sub> )	6%削減	6%削減	6%削減
省エネ	消費電力の削減	平成19年度 147,054(KWH) 55,586(kg-CO <sub>2</sub> )	10%削減	10%削減	10%削減
	化石燃料の削減 ガソリン 軽油	平成19年度 65,405(ℓ) 151,848(kg-CO <sub>2</sub> ) 47,451(ℓ) 110,167(kg-CO <sub>2</sub> )	5%削減	5%削減	5%削減
廃棄物の削減 省資源	金属類の分別、資源化	平成20年度 455(kg)	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%
	プラスチック類の分別	平成20年度 610(kg)			
	紙類の購入量削減	平成19年度(購入量) 443,500枚	25%削減	25%削減	25%削減
省エネ	水資源の節約	平成19年度 609m <sup>3</sup>	3 %削減	3 %削減	3 %削減

※平成23年度当初の目標

※削減の目標はすべて基準値からの削減%である。

※基準値については建物、車両台数によって

基準年度の数値を加味して年度によって変化する

主な活動内容としては各項目につき以下のこととなっている。

・消費電力の削減

- ①室内、室外、照明の消灯(LED型電灯への交換推奨)
- ②室内冷暖房の適正温度厳守 設定温度 暖房23℃< 冷房28℃>
- ③自販機の照明除去
- ④昼休みの事務所内の消灯
- ⑤エアコンの使用時間の限定(10:00~18:00)

・化石燃料の削減

- ①アイドリングは最低限に努める
- ②法定速度遵守、過積載厳禁、配送業務の計画的、効率的運用
- ③暖房設定温度 23℃以下
- ④給湯用ガスの節約励行啓蒙

・廃棄物の分別

○表示した指定保管場所の保管箱に収納し、一定量に達したらグループ地域内回収業者を決定し管理責任者が持込又は回収を指示する。この場合排出量の計測を行う。

○缶類に付いては内側洗浄乾燥の上、紙類と同様の手段で行う。

その他の金属類は分別が困難のため保管場所を決め、一定量に達したら金属処理業者へ持込又は回収依頼。

○ペットボトル(再資源化マーク有)は蓋を取り除き指定保管場所の指定袋に収納し一定量に達したら指定回収業者に依頼。

プラスチックごみは一般廃棄物(焼却ごみ)として回収業者に引き渡す。

廃プラは産業廃棄物としてマニフェストを作成し指定業者に回収を依頼する

・紙類の購入量削減

- ①両面印刷、両面コピーの励行
- ②裏紙利用(機密性のない外部文書も含む)
- ③会議資料等の簡素化(プロジェクター利用による無駄紙排除含む)

・水資源の節約

節水活動の啓蒙

## 6. 環境負荷と実績

過去3年分の活動規模と環境負荷の実績については以下の表のとおりである。

### ○事務所関係

活動規模	単位	25年	26年	27年
売上高	百万円	6,503	6,189	7,239
全社人員	人	70	78	79

		単位	25年	26年	27年
総エネルギー投入量	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	78,257	78,871	74,682
	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub>	262,216	263,702	256,566
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	582	555	775
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	343,483	343,052	331,248
廃棄物等総排出量	熱回収	t	1.5	1.1	1.0
	単純焼却	t	11.7	102.9	23.0
総排水量	下水道	m <sup>3</sup>	582	555	775

従業員一人当たり環境負荷は以下の表のとおりである。

		単位	25年	26年	27年
総エネルギー投入量	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	1,118	1,011	945
	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub>	3,746	3,381	3,248
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	8	7	10
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	4,907	4,398	4,193
廃棄物等総排出量	熱回収	t	0.02	0.01	0.01
	単純焼却	t	0.17	1.32	0.29
総排水量	下水道	m <sup>3</sup>	8	7	10

売上高による百万円あたりの環境負荷は以下のとおりである。

		単位	25年	26年	27年
総エネルギー投入量	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>	12	13	10
	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub>	40	43	35
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	0.09	0.09	0.11
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	53	55	46
廃棄物等総排出量	熱回収	t	0.0002	0.0002	0.0001
	単純焼却	t	0.0018	0.0166	0.0032
総排水量	下水道	m <sup>3</sup>	0.09	0.09	0.11

## ○工事関係

活動規模	単位	25年	26年	27年
売上高	百万円	6,503	6,189	7,239
全社人員	人	70	78	79

		単位	25年	26年	27年
総エネルギー投入量	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>			
	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub>			
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>			
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	9,971	7,276	0
廃棄物等総排出量	熱回収	t			
	単純焼却	t	3.7	145.0	3.01
総排水量	下水道	m <sup>3</sup>			

従業員一人当たり環境負荷は以下の表のとおりである。

		単位	25年	26年	27年
総エネルギー投入量	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>			
	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub>			
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>			
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	142	93	0
廃棄物等総排出量	熱回収	t			
	単純焼却	t	0.0529	1.8590	0.0381
総排水量	下水道	m <sup>3</sup>			

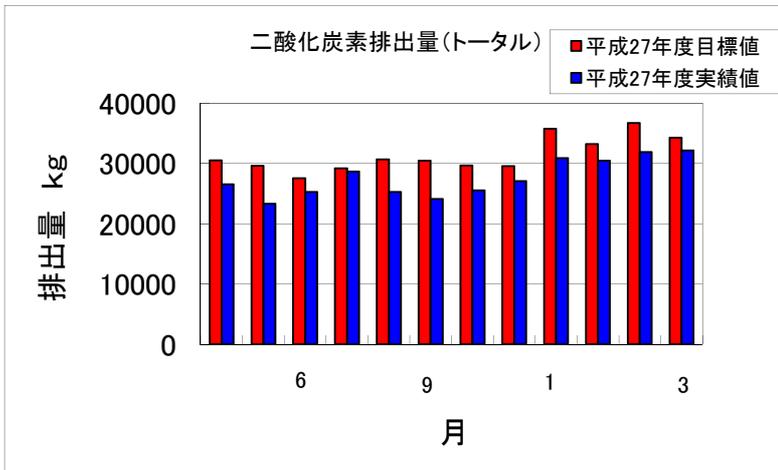
売上高による百万円あたりの環境負荷は以下のとおりである。

		単位	25年	26年	27年
総エネルギー投入量	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub>			
	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub>			
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>			
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	1.533	1.176	0.000
廃棄物等総排出量	熱回収	t			
	単純焼却	t	0.000569	0.023429	0.000416
総排水量	下水道	m <sup>3</sup>			

## 7.環境活動の取り組み結果と評価、次年度の取組内容

### ☆事務所の結果と評価

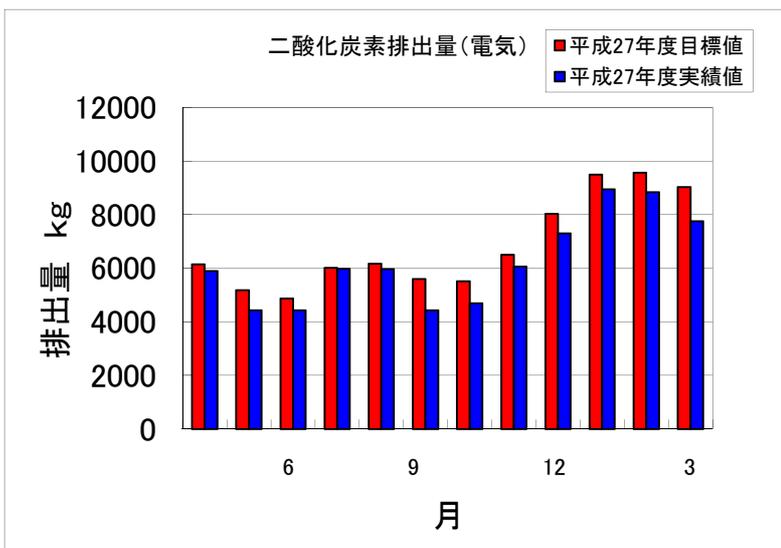
#### ○二酸化炭素排出量の削減



平成27年度の二酸化炭素の排出量は331,248kg-CO<sub>2</sub>であった。  
年間を通して、しっかりと目標を達成することができた。  
ハイブリッド車両の導入やエコドライブにより化石燃料の削減に努めることができたことの要因が大きかった。  
次年度も目標を達成できるよう全員で取り組んでいきたい。

	(kg-CO <sub>2</sub> )	(kg-CO <sub>2</sub> )/人
目標数値	377,212	4,775
平成27年度	<b>331,248</b>	<b>4,193</b>
比	0.88	
		売上あたり(百万)
		52
		<b>46</b>

#### ○消費電力(電力使用量)の削減について

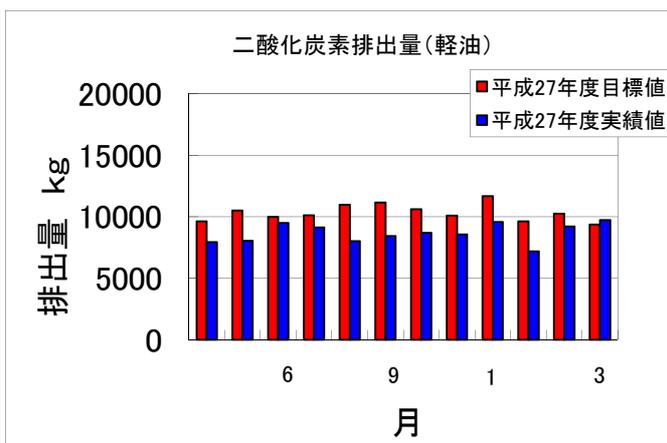
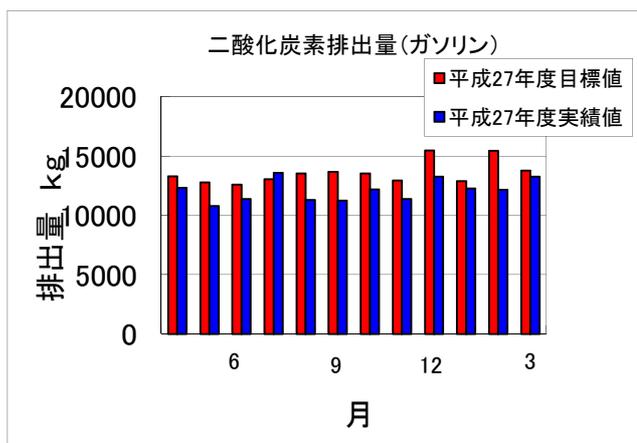


平成27年度の消費電力によるCO<sub>2</sub>の排出量は74,682kg-CO<sub>2</sub>であった。  
夏場には窓を開けて風通しを良くし、なるべくエアコンの使用を控えるようにした。  
それでもエアコンを使うときには、外気との温度差が激しすぎると体調にも影響するため、体調管理をするという意味でも改めてエアコンの設定温度を高めにし、全員で共有して適正な使用に努めた。  
冬場にはストーブを併用し、エアコンの使用を極力抑えることで消費電力を抑えることができた。  
引き続き取り組んでいく。  
その他、照明やパソコン等の事務用品の使用についても、引き続き使わないときはこまめに消して節電に努める。

	(kg-CO <sub>2</sub> )	(kg-CO <sub>2</sub> )/人	(kg-CO <sub>2</sub> )/百万
目標数値	82,049	1,039	11.3
平成27年度	<b>74,682</b>	<b>945</b>	<b>10.3</b>
比	0.91		

※電力の排出係数は中部電力の2014年度の0.494(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用した。

## ○化石燃料の削減について (ガソリン、軽油)



	二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )			売上高あたり(CO <sub>2</sub> /百万円)			台数あたり(CO <sub>2</sub> /台)
	ガソリン	軽油	トータル	ガソリン	軽油	トータル	トータル
目標数値	162,887	123,871	286,758	23	17	40	4625
平成27年度	145,022	103,894	248,916	20	14	34	4015
比	0.89	0.84	0.87			0.87	0.87

平成27年度の化石燃料によるCO<sub>2</sub>の排出量はガソリンが145,022kg-CO<sub>2</sub>、軽油が103,894kg-CO<sub>2</sub>であった。

無事に目標を達成することができた。ハイブリット車両の導入、取り組みにより効果が出ている。しかし、確実に毎年社員も増えてきているため、その分車両も増えている。今年も昨年から4台増えた。

車両が増えてくれば、それだけ二酸化炭素排出量も増加してしまう。

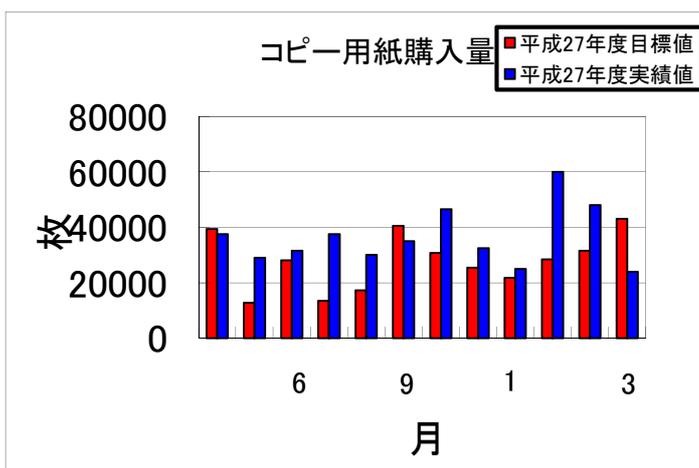
現在、ハイブリット車両はプリウスとインサイトがあるが、さらにハイブリット車両を導入していくことで給油回数が約半分となり燃費も約2倍になるので、二酸化炭素排出量の大幅な削減が望める。

そのため、今後車両を新しく入れ替える際には、二酸化炭素削減のために

引き続きハイブリット車両の導入を検討する必要がある。

また、事故が多発したため、ドライブレコーダーの一部導入を行った。これによる安全運転への意識の向上、そして、エコドライブに繋げていきたい。

## ○紙類の購入量削減



	購入量	売上高あたり	人数あたり
目標数値	332,625	46	4,210
平成27年度	436,500	60	5,525
比	1.31	1.31	1.31

平成27年度のコピー用紙購入量は436,500枚であった。

今年度も目標を達成できなかった。

様々な電子化が進んでいて、FAXをペーパーレスにしているが、それでも大幅な削減には至っていない。主な原因としては紙で提出書類が増えていること。

特に、工事関係の完成図書と呼ばれる書類が客先と弊社での保管用としての必要なため使用枚数が増えてしまう。

また、仕事が増えれば見積み等も増えてくるので無駄な使用がないように気をつけたい。

## ○廃棄物の分別、再資源化

(単位:kg)

	可燃ゴミ	カン	ビン	廃プラ	金属	木屑	段ボール	紙リサイクル
平成26年度	4,049	87	32	4,476	4,780	122,330	5,116	396
平成27年度	3,015	89	25	6,122	1,380	31,420	3,963	857

データとしては上記のとおりである。

前年と比べると、しっかりと可燃ゴミが削減できている。

分別はきちんと行われているので資源物はリサイクルをし、今後もゴミを削減するよう取り組んでいく。

## ○プロパンガス使用量について

プロパンガスの使用については、基本的に環境負荷への影響が少ない(CO<sub>2</sub>排出量で全体のおよそ1%)と思われるため、プロパンガス使用の啓蒙活動を今後も続けていきたい。

## ○灯油の使用量について

灯油の使用については、基本的に環境負荷への影響が少ない(CO<sub>2</sub>排出量で全体のおよそ1%)と思われるため、灯油の使用の啓蒙活動を今後も続けていきたい。

## ○水資源の使用量について

水資源の節約については基本的に生活用水としか使用していないため節水の啓蒙活動を今後も続けていきたい。

## ○省エネ商品の提案について

各部門において様々な活動を行ってきた。

工作機械の更新、省エネコンプレッサの提案導入、LED照明の提案導入、PSIの提案導入、F☆☆☆☆の商品の提案導入に取り組んでいる。

継続して取り組みたい。

## ○化学物質の保管及び運搬について

消防法等に準じ適正な保管、運搬を行った。

次年度以降も法令に準じて取り組んでいきたい。

## ○社内外の清掃について

昨年に引き続き毎月1日に全社での社内外の清掃の日を決めて行った。



清掃風景

## ☆工事現場の結果と評価

工事現場での電力も使用しているが、使用量の契約ではないため使用量の把握は困難である。

使用金額は平成27年度分で33,836円である。

工事現場については廃棄物の排出量は以下のとおりである。

排出量(t)

廃棄物	コンクリート類	金属くず	廃プラスチック	汚泥	廃酸・アルカリ
平成26年度	0	2370	59.7	0	140
平成27年度	1.2	6.8	6.5	0	0.11

アスファルト類、金属くず、汚泥は再生利用。

工事の内容によって排出されるものが違うので単純に比較は出来ないが、適切に産業廃棄物は処分できた。

来年度も法改正されれば法律に沿って活動を行っていく。

## ☆次年度の取り組み内容

平成28年度の取り組みは環境目標に沿って、引き続き二酸化炭素の排出量の削減、省エネ、

廃棄物の削減による省資源活動及びエコ商品の提案、推進に取り組んでいく。

当社にとって最大の環境負荷となっている化石燃料の使用に対して、引き続きエコドライブ等を徹底し、社員全員が燃費向上に努め、省資源活動に積極的に参加する。

また、コピー用紙の購入量についても引き続き減らせるよう取り組んでいく。

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

平成27年度は、甲信商事始まって以来の過去最高の売上、利益をあげることができた。様々な要因が挙げられるが、補助金等による工作機械の販売が好調だったことまた、上水道工事の受注がかなり伸びたことの2点が主であった。次年度も事故等もなく業績も拡大できるよう取り組んでいきたい。また、飯田営業所では新築作業が進み、移転予定となっている(H28/4/11日移転)。環境活動に於いては、甲信商事にとって一番環境に影響を及ぼしているのが化石燃料の使用であるが、全体的にみると目標を達成できている。引き続きエコドライブ、適正なエアコンの使用、ハイブリット車の導入などを行っていくこと。また、事故が多かったために一部にドライブレコーダーを導入した。これによって安全運転を意識させ、同時に、エコドライブへ繋げる。今後も随時ドライブレコーダーを導入していくこと。一方で、コピー用紙購入量が削減できていない。原因としては、公共部の売り上げ増加に伴う工事が増加したことによる完成図書が増えたことが一因である。そのため、さらなる紙の使用量の削減のために、印刷物の見直し・削減、そして、目標値の改定が必要になってくるだろう。毎年、確実に社員が増加してきて、今後、排出量や廃棄物等が増えてくる中で、改めて社員全員が高い意識をもって環境活動に取り組み、目標を達成していかなければならない。平成28年度は甲府支店の建替えも検討しているので企業活動及び環境活動にしっかりと取り組んでいきたい。

代表取締役  
横山 普一

## 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無

○当社に適用される関連法規の遵守状況

環境関連法規	該当する活動	遵守状況
廃棄物処理法	マニフェストの管理の徹底(紙、電子マニフェスト) 廃棄物処理業者との適正な契約(許可証の確認、処分場の視察)	遵守
消防法	危険物保管の指定数量以上の許可申請 消火器および火災報知器等の点検及び届出	遵守
毒劇物取締法	毒物及び劇物の使用及び運搬	遵守
フロン回収・破壊法	特定製品の廃棄時のフロン回収	遵守
自動車リサイクル法	使用済み自動車の再資源化 (リースアップ後リース会社へ返却)	遵守
家電リサイクル法	TV、洗濯機、冷蔵庫、エアコンの適切な廃棄	遵守
PRTR法	特定化学物質の流通量の管理	遵守
建設リサイクル法	対象工事における届出書面の作成	対象なし
道路交通法	道路における対象工事・作業の許可申請	遵守
騒音規制法	指定地域における建設作業と届出	対象なし
振動規制法	指定地域における建設作業と届出	対象なし

定期的に当社に適用される環境関連法規は片桐環境管理責任者が適切にチェックを行っており、環境関連法規への違反はありません。なお、関係機関および近隣住民からの苦情、訴訟等の指摘は過去一件もありません。